

2018年度 年卒業式・修了式 学長式辞

はじめに、ご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

本日、ここに卒業式、修了式を盛大に挙行できますことに対し、深く感謝いたします。

今年の卒業式は、平成最後の卒業式となり、平成30年間の重みを感じずる卒業式となりました。

ただいま、学士・修士の学位を手に入れました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

ご列席の保護者の皆様、ご家族の皆様にも心からのお祝いを申し上げます。保護者の皆様におかれましては今日の晴れ姿をご覧になり、さぞや感慨深い事と存じます。これまでのお嬢様の成長を支え、見守って来られましたことに対し、敬意を表します。

さて、皆さんが入学して2年、あるいは4年が経過し、晴れて卒業を迎えた訳ですが、それぞれに本学での学生生活が充実したであろう事を願っております。

中にはこの日を迎えるのに、困難を極めた方もおられるでしょう。諦めずに努力し、この日を迎えたことは皆さんの将来にとって、大変重要な事です。たかが、卒業証書1枚と思われるでしょうが、授与されたか否かでは全く異なります。

これまでの学生生活を振り返り、反省すべきところは反省し、ここまで成しえなかった事は今後につなげ、努力していただきたいと思います。皆さんは卒業後の進路や就職は既に決まっておられると思いますが、新しいステージに向かう心構えは出来ておりますか。

修士を取得なさった皆さん、目標とした研究は充分できたでしょうか。思っていたより難儀したのではないのでしょうか。しかし、今日の修了式を迎えられたのは厳しくも思いやりある指導教官の導きがあってこそ、と思われれます。皆さんが研究で得た知見は今後社会に役立て頂き、また、研究に終わりはないのですから、意欲ある方は更なる研鑽と継続する事を希望いたします。

学部を卒業なさる皆さんは、この4年間の学びを今後どのように活かしていくのでしょうか。

教員免許・保育士の免許を取得なさった方は教員・保育士として頑張っていくかと思われれますが、免許は取らずとも目標や希望を持っている方は更なる挑戦をしてください。その意欲と行動によって新しい道が開けてくるかと思えます。そうした卒業生の活躍も期待したいところです。

皆さんの先輩の中には教員は勿論の事、俳優やスポーツレポーター、あるいはダンサーとしてテレビ・映画・舞台などで大いに活躍している方もおられます。その様な輝く彼女達は、それはそれで大変な努力をしているのです。大学で学んだことだけで生きていく事は出来ません。

新しい事への取り組みは日々の研鑽と努力の積み重ねがあつての活躍になります。皆さんの大いなる活躍を期待しております。

話は変わって、平成から元号が変わり、新しい動き出しがあると想像しています。

皆さんも世の中の動きを予測し、先を見据えていかなければなりません。日本の人口は、平成23年(2011)には26万人の減少となり、以後減少をたどっています。内閣府の報告では、平成28年(2016)の出生数は、約97万7000人と初めて100万人を割りました。

一方で、健康寿命が延び高齢化が進む中、働き手である若者の減少が止まらず、政府は外国人労働者の受け入れ法案を成立させました。つまり、これは人手不足解消策であります。

約20年前は就職氷河期という、大学を卒業してもすぐに希望する職業につけないという時期もありました。しかし、現在は人手不足により就職困難はやや緩和されているようです。どんな就職につき、どんな出会いがあるかは、将来に大きく影響致します。卒業後の第一歩は皆さんの人生にとっての岐路になります。真剣に取り組んで欲しいと思います。

何故なら、日本のみならず世界の経済は混沌としており、先の見えない世の中になってきました。これから、外国人労働者の受け入れが進む事によって、将来的には学校・職場等において外国人との共生が始まると予想されます。皆さんが子育てをする頃には日本人の常識だけでは通用せず、これまで以上に異文化への理解と多様性を尊重する時代となり、広い心を持ち、他者のアイデンティティを認める人間形成が求められるでしょう。これからの社会は、皆さんが考えている以上に早いスピードで多様化していきます。我々の生き方として、これまでとは根本的に異なった次元からの選択を迫られる事になります。皆さんにとって今までの学生生活は、言い過ぎかも知れませんが、得意とするスポーツの日々の練習に明け暮れていたかもしれません。しかし、これからは大人として自立し、社会人としての知識・教養・判断力を身につけ、地に足をつけて進んで行かなければなりません。

日本は明治、大正、昭和、平成と特色ある時代を経てきました。節目の年として、平成の30年間を振り返ってみました。

平成7年(1995)には阪神淡路大震災が起り、その後、サリン事件、東日本大震災、福島原発事故、熊本地震、西日本豪雨など多くの災害に見舞われ、日本中が不安と恐怖に駆られた平成でありました。また、世界に目を向けると平成元年、1989年のベルリンの壁の崩壊は東西冷戦から世界が大きく動いたような、大変センセーショナルな事として記憶しております。また、平成13年(2001)アメリカで同時多発テロが起り、テレビの報道に映画ではないかと思わされた瞬間でした。

しかし、暗い話ばかりではなく、この30年間には夏季オリンピック7大会、冬季オリンピック8大会が開催され、多くの若者が活躍しました。勿論本学の卒業生もバルセロナをはじめ、アトランタ、トリノ、北京、ロンドン、リオ大会で活躍致しました。中でもロンドンにおける女子サッカー決勝での岩清水 梓選手の活躍に、大いに沸いたものでした。

近年は特に、障害を乗り越え活躍するパラ・オリンピアン姿に、多くの者が励まされ、注目が集まるようになりました。大変素晴らしい事だと思っております。来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの開催となります。本学の学生も自国開催のオリンピックでは是非活躍して欲しいと願わずにはられません。

オリンピックは4年に一度開催されるスポーツの祭典です。スポーツ関係者であれ

ば一度は日の丸・五輪のマークの付いたユニフォームを着たいと思う事でしょう。しかし、そんなに簡単にその夢が叶う訳ではありません。だからこそ、その高き夢や希望を叶えるためにスポーツマンは異常とも思える努力をするのだと思います。過日、競泳の池江璃花子選手の病気の報道があり、神様はなんと無情な試練を与えるのかと悔やんでおります。彼女のこれまでの努力が報われるよう、早い回復を願いたいと思います。

最後に旅立つに皆さんに、メッセージを送りたいと思います。

それは海外での生活経験をしてほしい、ということです。私は自分の夢や希望でもあった留学というものを実現出来なかった事が心残りになっています。渡航経験は数多くしましたが、やはりその国に滞在し生活しなければ、言語・生活習慣や宗教といった文化の違いを知ることはなかなかできません。そこで生活することによって、人種を超えて人を受け入れることが出来るようになり、視野が広がり、人として大きく成長できると思う一人です。グローバル化が叫ばれている今日ですが、皆さんもチャンスがあったら、失敗を恐れず若い吸収力のあるうちに一度は経験してみたいと思っています。

おわりになりましたが、本日無事に卒業を迎えられたことに対し、保護者への感謝を忘れてはなりません。そして、皆さんが将来に亘って健康で活躍する事を願って学長式辞といたします。

2018年3月15日

日本女子体育大学
学長 石崎 朔子